

2020年5月22日
日 本 銀 行

当面の金融政策運営について^(注1)

日本銀行は、本日、政策委員会・金融政策決定会合において、金融市場調節方針および資産買入れ方針について、以下のとおり決定した。

1. 長短金利操作（イールドカーブ・コントロール）（賛成8反対1）^(注2)

次回金融政策決定会合までの金融市場調節方針は、以下のとおりとする。

短期金利：日本銀行当座預金のうち政策金利残高に▲0.1%のマイナス金利を適用する。

長期金利：10年物国債金利がゼロ%程度で推移するよう、上限を設けず必要な金額の長期国債の買入れを行う。その際、金利は、経済・物価情勢等に応じ上下にある程度変動しうるものとする¹。

2. 資産買入れ方針（全員一致）

長期国債以外の資産の買入れについては、以下のとおりとする。

- (1) E T FおよびJ-R E I Tについて、当面は、それぞれ年間約12兆円、年間約1,800億円に相当する残高増加ペースを上限に、積極的な買入れを行う²。
- (2) C P等、社債等については、それぞれ約2兆円、約3兆円の残高を維持する。これに加え、2021年3月末までの間、それぞれ7.5兆円の残高を上限に、追加の買入れを行う。

以 上

¹ 金利が急速に上昇する場合には、迅速かつ適切に国債買入れを実施する。

² E T FおよびJ-R E I Tの原則的な買入れ方針としては、引き続き、保有残高が、それぞれ年間約6兆円、年間約900億円に相当するペースで増加するよう買入れを行い、その際、資産価格のプレミアムへの働きかけを適切に行う観点から、市場の状況に応じて、買入れ額は上下に変動しうるものとする。

^(注1) 今回の金融政策決定会合の「主な意見」は作成しないが、議事要旨は、6月15、16日に予定されている金融政策決定会合で承認し、6月19日に公表する。

^(注2) 賛成：黒田委員、雨宮委員、若田部委員、布野委員、櫻井委員、政井委員、鈴木委員、安達委員。反対：片岡委員。片岡委員は、今後の物価下押し圧力の強まりへの対応と、企業・家計の金利負担軽減を企図して、長短金利を引き下げること、金融緩和をより強化することが望ましいとして反対した。

(参考)

・開催時間——5月22日(金) 9:00~9:54

・出席委員——議長 黒田 東彦 (総裁)
雨宮 正佳 (副総裁)
若田部 昌澄 (")
布野 幸利 (審議委員)
櫻井 眞 (")
政井 貴子 (")
鈴木 人司 (")
片岡 剛士 (")
安達 誠司 (")

上記のほか、

財務省 神田 眞人 大臣官房総括審議官 (9:00~9:36、9:47~9:54)

内閣府 宮下 一郎 内閣府副大臣 (9:00~9:36、9:47~9:54)

が出席。

・公表日時

当面の金融政策運営について——5月22日(金) 10:01

議事要旨——6月19日(金) 8:50 予定

以 上